



第2号

■発行 花桜会大学部会
 責任者 益田 理恵子
 熊本市榎木6-5-1
 096-338-8840
 ■印刷 (株)河田印刷

在 学 生 と の 接 点 を

文化言語学部 文化言語学科
(旧・文学部 国文学科)



中村 正市

今年卒業式の前、第一回卒業生が私を訪ねてくれて、とても懐かしく嬉しく思い、草創の頃をお互いに偲び合った。お子様がもう大学生になつたと聞いて、平和な中に久しく時が流れていることを実感した一瞬でもあった。この久しい時の流れを無駄にしてはいけない。この久しい時の流れが、久しい隔たりとなつてはいけない。なぜか、その第一回生の幸せに満ちた姿を拝見して、ふとそう思ったのである。在学生と卒業生とを結びつける―そこに何かしら大きな作用が働くに違いない。友好・尊敬・信頼、いや、そればかりではな

く、敬愛の念も報恩の心も生じるのではないであらうか。そう言えば、卒業生と在学生との接点が、まだまだ少ないように思われる。多くの諸先輩達が、どのように社会で活躍され、どのように家庭で幸福な生活をされているかを、在学生達は殆ど知らないであろう。先輩達の様々な輝かしい姿を、身近に感じ直接触れられることは、若い後輩たちの生きる力となり励みとなり希望となつていくに相違ない。そんなことを思つて、今春は、コースの先生方と新入生との懇談の時に、二人の卒業生をお招きした。そして、私共と一緒に新一年生の中に入つて親しく話し合う場を設定したのである。こうした試みは、私も初めてであった。新入生を驚かしたくも思つたし、感動させたくも思つたからである。それから、もう一つは、新任の三人の素敵な先生方が、この春、着任され、私共のコースに來られたので、尚綱のことを、別な角度で理解して戴きたくも思つたからである。

人の特別ゲストを、新入生たちは「驚きと喜び」で迎える、興味津々で、お二人の話に耳を傾け質問を發して、瞬く間に時が過ぎた。尚綱大学がこの世に生まれて、はや三十年以上も経過したが、長い時の流れを堅実に歩み続けていることや多くの先輩たちがあらゆる分野で今を盛り、尽力し精励していることを、力強く頼もしく思えた事であろう。不安と期待で一杯の新年生にとつて、こうした出会いが、希望となり勇氣となり自信となつてくれたならば、これ以上の幸せはない。

そこで、花桜会大学部の皆様にお願ひしたいことは、皆様方と在学中の学生たちとの、触れ合いの場というか、結び付きの場を、ぜひ設けて戴きたいということである。例えば、榎木祭などの折に、先輩たちの展示の場を設けて、今の学生たちと触れ合う機会があれば、花桜会も更に身近なものとなり、新たな友好関係も生まれるであろう。あまりにも遠い存在であつては、心寂しく思われるからである。また、学生たちへの激励の意味で、論文やレポート、あるいは創作作品などの優れたものに対し、奨励賞として、賞状と賞品を授与するということにも、意義あることのように思われる。賞品は高額なものではなくてもよい。学年を問わず、年間十名の人に与えるだけでもしたら、違った意味の励みにもなり、研究や調査に新たなエネルギーも生じることであろう。と同時に、先輩と後輩の一つの架け橋ともなり、友好の輪も深まつていくに相違ない。もう一つは、懇話会なり茶話会なども時には開いて、今と昔を結び、昔と今を語り合うのも面白いように思う。映画鑑賞やバス旅行も趣深いであろう。一つのめぐり合いが、夢を現実にするものもあれば、未知の世界を拓くこともあるからである。他にも種々な方法があるろうが、ご提案戴いて、いつの日にか在 学 生 と の 接 点 を と、切に願うものである。

花桜会大学部会も、もうすぐ三十代を迎える。人生で言えば、最も活気に満ちた働き盛りの時代となる。それは私共にとつても、この上なく喜ばしい限りである。どうか美しく咲き乱れる桜花の如く、誰からも愛され親しまれる存在となるよう心から願つてやまない次第である。

尚綱大学で 過ごした四年間

文学部国文学科卒業
書道コース十一期生

内村 雅



尚綱大学で過ごした四年間は、私にとつてとても充実したものになりました。私が大学で頑張ってきた事は、主に作品制作でした。一年生の頃は作品のつくり方もわから

ず、書く事もそんなに好きではありませんでした。が、学年が上がるにつれて、知識も身につ

に頑張ってきた書道コースの十三人の仲間は私の一生の宝物です。また、規模が小さな大学なので、他のコースにもたくさん

さ気づきました。

私が四年間でこまめに書かれたのは、周りの

の方々の支えがあったからです。先生方や仲間達にと

ても感謝しています。作品制作は楽しいだけでなく、辛い事も少なくありません。そんな時、一緒



林辺鳥 語月微
下竹裏 花飛春
又深

私に会ったのは、四年間で出会った人

できませんでしたし、自分の知らない自分にも出会えたと思います。尚綱大学に来て本当に良かったです。

夢を 追いかけてます

文学部国文学科五回生



内藤 潤子

月日のたつのは早いものです。振り返ってみれば、卒業して、やがて四半世紀になろうとしています。(年齢、バレー!) 私は大学を卒業して水

俣の中学校で臨時採用の講師をし、その間に保育士の資格を取って実家近くの幼稚園で講師をし、結婚しました。

現在は、大学三年生の息子と、高校三年生の娘の母です。普段は、猫の手(ほとんど役にたたない)程度に、自営の夫の手伝いをしています。

私は中学校の時から、「文を書いて某かの収入になれば嬉しいなあ」と思っていたんです。その夢は結婚しても捨てきれ

ずにいたところ、熊日新聞が発行している「すばいす」で初めて読者ライター募集があり、私も飛びつくように応募しました。

当時の読者リポーターは、一ページ特集の企画を出しては自分たちで取材をし、原稿を書いていました。時にはショートエッセイを書かせてもらったりもしたんです。とても楽しかった!

そんな時期を経て、数年前からはフリーライター

ありがとう ございました

食堂の経営システムが変わり、今までのスタッフの方々が三月で辞められました。

そこで、開学当時からお世話になった、食堂のおばちゃんにメッセージを頂きましたので御紹介します。



大川原里美 さん

卒業生・在学生の皆さんへ
大学開学当初は大学に学食もなく、そのため短大で作りの、出来るだけ出来たての温かいものをと運んでいました。私たちがバタバタと忙しそうにしていると誰かれどもなく飛んで来て、車から降りたり、カウンタに並べたり、ある時は販売までも手伝って下さいました。

その後、立派な現在の学生会館も出来、新しい厨房で仕事をさせていただきました。楽しく過ごして参りました。楽しかった思い出が走馬燈のように思いうかんで来ます。生涯、忘れることの出来ない楽しい思い出ばかりです。

この三月をもって私たちは学食を去ります。長い間、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。皆さまのご健康とますますのご活躍をお祈り致します。

つれづれに 大学で学んだ常識 のものさしと近況

国文二回生 井上恵美子

大学の四年間で学んだ事はたくさんありますが、後々いろいろな場面で思い出され、又役立つ言葉が二つあります。

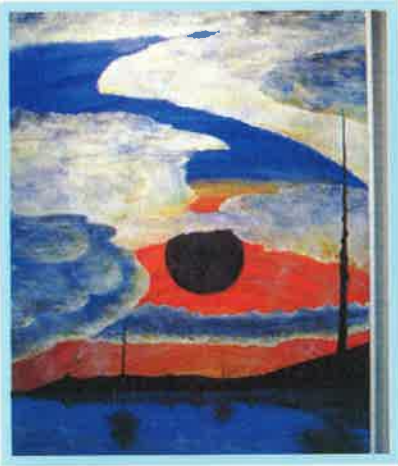
ひとつは、古澤先生の漢文学で登場してきた「規矩(けいこ)」という言葉。(くわしい出典や前後の話はすっかり忘れてしまいました。先生、ゴメンナサイ。)

もう一つは、有馬先生の音楽の講義中の言葉で「お父様方は人生や仕事で培った知識が、お母様方は家庭や地域で得た知識があり、皆さんには今、大学で学んでいる文学の専門知識がある。人にはそれぞれ違った価値観や常識があるので、人が自分と違う意見だからといって嫌ったり卑下したりしてはいけない。」です。

どちらも「常識のものさしは、人それぞれ違うのですよ。」という意味であり、社会人になってから出会った、話が分からないとしか思えない上司や、突拍子もない事だけ

第十七回尚美展報告

美術部顧問・短期大学部幼児教育学科講師 横山博之



「シキ」油彩F100 大学4年 迫 彩子

「尚美展」とは、大学と短大部の美術部の学生とそのOGによる美術の展覧会です。私の前任の谷脇敬二先生が企画されてから、今回で十七回の歴史があります。したがって、これまで、多くのOGの方々に参加していただいております。最近ではかなり世代交代して



「赤いクチバシの鳥」油彩F50 大学2年 小林茉莉香

平成十九年三月十四日から十九日までの期間に、上通り・アートスペース大宝堂にて「第十七回尚美展」を開催いたしました。今回はその報告と学生の様子などをご紹介します。

平成十八年度の大学美術部の部員は四年生が二人、二年生が四人在籍し、週一回の部活動が続けてきました。今回の展覧会

代して、るようすが、是非、これも各世代のOGの方々に参加をいただき、その



第17回尚美展会場の様子

の作品を紹介し、四年生の迫さんが一〇〇号の油彩の大作に挑み、環境問題を考えさせるテーマで、不安と希望が入り混じった、イメージの中の風景画を発表しました。二年生の小林さんは、図鑑に載っている鳥を、発色の良い油彩を用い、楽園の中で見てきたかのような鮮やかな作品を書き上げました。同時に展示しました、短大部美術部の学生の作品と比べると、短大部の学生がより直接的な表現を好むの

たいし、大学美術部の学

生は内面の描写、イメージの世界を具現化するための表現を好むようです。また、今回は大学写真部二年の学生も参加してくれました。「尚美展」は、主に絵画表現の発表の場として、本学の芸術振興の一端を担ってききました。現在のアートの領域、表現の形態はかなり多様化してきています。写真や映像表現もそのひとつです。大学写真部は、昨年学生の意志により発足したまだ新しい部で、今後も「尚美展」を含めた活動に期待をしますところ

です。学生達は文学というフィルターを通し、それぞれの専門分野で日本文化と英語圏の文化の修得と、言葉による表現について学んでいきます。それに加えて部活動を通して、芸術について知識・関心を持つことは、文化についての、より豊かな理解に繋がると考えています。

「尚美展を開催して」

大学美術部一同

今回の尚美展は、少数の部活動であるにも関わらず、たくさんの方にご来場いただきました。作品を見てもらえる喜びを感じると共に、アドバイスもいただき、貴重な勉強の場となりました。部員だけでなく、卒業された先輩方や短大の先生方も参加して下さい、大変賑やかで活気のある作品展にすることが出来ました。来年はよりよい美術展にするために、横山先生のご指導の下、精力的に部活動に取り組んでいきたいと思っております。

思いつく仲間などと対するにつけ、一人胸の中「ものさし、ものさし」とお念仏のように唱えて、百言いたるところを九〇くらいに減らして対処してきたものです。

ここ二十年程は、次の四つの事で生計を立てています。一、フラワーデザイン講師。二、料理教室主宰。三、フリーランスライター。四、尚短大・大学で体育を教えた父井上元二のスネをかじる。中でも四つ目のスネかじりが一番大きいかなと思われま。私達親子も世間の常識とかに離れていた事が数年前に発覚しました。母が他界した折に利用した救急車の運賃を役所に問い合わせた事と、予約をしておかないと葬儀屋さんを利用できないと思っていた事の二つです。どちらも担当の方が「奥さまを亡くされて動転してらしたんです」と良いように解釈していただきましたが、私達は本気でそう信じていました。

どうか皆様も、私達父娘がとてつもなくかわつた意見を言いだしたとしても、この「ものさし」の話を思い出し、温かい目で見えて下さい。

花桜会大学部会 総会のお知らせ

今年度の総会を左記のとおり開催を予定しております。

尚、総会後は元熊本放送アナウンサー岩元克雄先生をお招きして「話道のこのころ」と「らしき言葉」をテーマに講演をいただきます。予定となっております。

初夏のひとつときをなつかしい榆木キャンパスで、学生時代の気持ちに戻り過ごしてみるのはいかがでしょうか。車でお越し下さい。広い敷地に駐車スペースは充分用意しております。皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

初夏のひとつときをなつかしい榆木キャンパスで、学生時代の気持ちに戻り過ごしてみるのはいかがでしょうか。車でお越し下さい。広い敷地に駐車スペースは充分用意しております。皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

でにお知らせ下さい。(お手数ですが50円切手を貼付して投函下さい。立て替えていただいた50円については、総会当日お返しいたします。)

問い合わせ先

〒八六一一八五三八
熊本市榆木六一五一
花桜会大学部会(市川)
TEL
〇九六(三三八)八八四〇

1 日時
平成19年6月30日(土)
午後1時30分
(午後1時受付)

2 場所
尚綱大学榆木キャンパス
*TEL

3 その他
〇九六(三三八)八八四〇
出席の方は同封のハガキにて6月15日(金)ま

●岩元克雄先生 プロフィール●

昭和43年、アナウンサーとして熊本放送入社。RKK学苑社長を経て、平成18年4月より尚綱大学文化言語学部文化言語学科「話し方論」「アナウンス実践論」の非常勤講師となる。「話道のこのころ」「お遍路道中記」を出版。



～募金のお願い～



平成18年度より尚綱大学は、「文化言語学部」及び「生活科学部」を新設し、それに伴い九品寺キャンパスに新校舎が建てられた事は周知の事と存じます。花桜会大学部会では、後輩の育成を側面から応援する為、昨年より御寄附をお願いしておりますが、まだまだ目標額には、達しておりません。趣旨をご理解頂き、御協力賜りますよう、再度お願い申し上げます。(同封の振り込み用紙をご利用下さい。)

次号からのもっとも内容充実させたいと思っております。色々なご意見、ご要望をお聞かせ下さい。又、学年での集まり等開かれまして写真添えてご報告頂けたら幸いです。それでは、総会で一人でも多くの方と再会できるのを楽しみにしております。

インパルスが、清水校舎の上空に。皆、窓際に駆け寄り会議はそちのけで見入ってしまいました。一つの集まりでも脱線のくり返し、半ば井戸端会議状態の中、楽しく「花ざくら第2号」を作成致しました。いかがだったでしょうか？原稿や資料をお寄せ下さった方々に深く感謝致します。



編集後記
編集会議中、熊本城築城四百年記念イベントの為にやって来たブルー

平成19年度 尚綱公開講座

◆メインテーマ

人間探求 - 生活に華をそえよう -

尚綱学園恒例の公開講座を開きます。皆様多数のご来場をお待ちしております。

開催日時と講座内容

	A (18:00~19:20)	B (19:30~20:50)
9月10日 月曜	江戸川柳に描かれた女性 尚綱大学文化言語学部 教授 中村正市	方言に見られることばの豊かさ 尚綱大学文化言語学部 講師 畠山真一
9月11日 火曜	中国古典の恋愛歌 尚綱大学文化言語学部 講師 加藤、聡	「本との出会い」 -情報社会における図書流通- 尚綱大学文化言語学部 講師 角田裕之
9月12日 水曜	腸内細菌と健康 ~乳酸菌の秘めたる能力~ 尚綱大学生生活科学部 講師 木村宏和	お手軽シェイプアップ -身体組成と運動・栄養- 尚綱大学生生活科学部 准教授 田中真知子
9月13日 木曜	子育てに華をそえよう(I) 尚綱大学短期大学部 総合生活学科 准教授 谷口 卓	子育てに華をそえよう(II) 熊本県山鹿保健所保健予防課長 前熊本県中央児童相談所主幹 堀内香代子
9月14日 金曜	色彩で楽しく健康増進 色彩空間ゆめ・みんぐ 代表 米盛麻美	全講座を通じての総合的な質疑応答 講師全員出席

*受講される方には受講券をお送りいたします。

申込先: 〒862-8678 熊本市九品寺2丁目6番78号
尚綱学園内 尚綱公開講座係 電話: 096-362-2011
(※お問い合わせも「公開講座係」をお願いいたします。)

開講の場所: 九品寺キャンパス大学1号館10階ホール
(熊本市九品寺2丁目6番78号)

受講者: 男女、年齢に関係なく、受講できます。
受講料: 5日間の資料代実費2千円をご負担頂きます。お申し込みの方には事前に講義録をお送りします。

受講申し込み: 往復はがきに①郵便番号、②住所、③氏名(フリガナ)、④年齢と性別、⑤電話番号、⑥受講希望講座名、⑦前回受講の有無、を書いて8月31日(金)までにお申し込みください。なお、個人に関する情報は、公開講座に関してのみ使用させていただきます。